



Well - Being Challenge おおがわら

令和 8 年度

はねっこペタンク大会 参加者募集 !!

誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの1つ、ペタンクの大会を開催いたします。
ご家族やお友達、行政区のかたたちとチームを作って参加してみませんか？

開催日時 11月7日(土) 9時30分～(受付：9時00分～)

会 場 ヒルズはねっこアリーナ 多目的広場（総合体育館）
※雨天時、アリーナにて室内ペタンクを実施

参加費 1チーム 1,000円
(保険料含む)

対 象 者 小学生以上 1チーム4名（トリプルス：競技者3名、補欠1名）
※チーム編成は、男女、年齢問わず

申込方法 参加費を添えて、ヒルズはねっこアリーナ（総合体育館）
窓口へ、9月7日(月)から10月9日(金)までの期間でお
申込みください。

そ の 他 ・運動のできる服装、飲み物、雨天時は室内シューズを
持参してください。
・表彰は優勝から第3位まで行います。



WBCおおがわらの問合先▶スポーツまちづくり推進課 ☎0224-87-8040

かんたん 健康 Cooking

春雨ときゅうりのサラダ



写真は1人分

【ひとり分栄養価】
エネルギー：37Kcal 塩分：0.5g



調理担当 ヘルスメイトからの一言

粉山椒で口の中がさっぱり
します。
量はお好みで調節してみ
てください！

鈴木 尚子（金ヶ瀬4区）

問合先 健康推進課 健康推進係（1階4番窓口）
☎0224-51-8623



材 料（2人分）

- | | | |
|---------------|-----|-----------------|
| ・春雨（乾燥）…8g | A { | ・酢……………小さじ2 |
| ・きゅうり……………40g | | ・しょうゆ… 小さじ1 |
| ・生わかめ……………10g | | ・砂糖……………小さじ1 |
| ・粉山椒……………少々 | | ・ごま油……………小さじ1/2 |
| | | ・こしょう… 少々 |

作 り 方

- ①春雨はお湯で戻し、3～4cmの長さに切る。きゅうりも同じ
長さの細切りにする。わかめは水洗いし、水気を切って1cm
幅に切る。
- ②ボウルに①を入れ、混ぜ合わせたAのドレッシングと和える。
- ③②を盛りつけてから、粉山椒を振る。



これまでのレシピはコチラから！



町長エッセイ さくら並木

今年の夏は、当初の猛暑予測とは異なり天候不順の日が多く、イベントの開催に苦慮する状況もあったようです。本町の夏最大の風物詩である『おおがわら夏まつり』は、雨の心配もありましたが無事花火も打ち上がり、安堵したところでした。帰省された方々が故郷を改めて感じる機会にもなったことでしょう。

しかし、お盆も過ぎて懸念されることは、行政区等で実施される町内のまつりの大幅な減少です。地域コミュニティの希薄化につながる深刻な課題であり、コロナ禍や猛暑の性にばかりは出来ない社会問題です。また、先日こんな話を聞きました。生まれ育った故郷を離れて3世代続けて都会暮らしをすることになると、実は故郷を持たない存在になってしまうという驚くような警鐘でした。

私は、唱歌『ふるさと』に郷愁を覚えながら、本町の風景と家族・友人への思いや帰りたいと願っていた頃が懐かしく思えます。もちろん、本町の伝統であった『花火大会』も故郷を感じる重要な1コマでした。故郷を離れて初めてその良さや大切さが実感できたものと受け止めています。

故郷を持たない人の増加が意味する課題には、コミュニティを支えてきた共通する価値観の変容や伝統・文化を受け継いだ温もりや賑わいの喪失等もあるものと考えています。都市と地方の意識の格差の拡大や地域住民の連帯感の希薄化は、結果として安全・安心を支える地域社会の基盤や機能の低下を招くはずです。

（8月18日記）

tree doctor

第60回 桜の治療の現状と課題



町内在住の樹木医

尾形政幸先生の花は桜木

桜の「治療ノート」に今回は「おおがわら桜まつり」メイン会場周辺の350mエリアが新しく含まれました（図①E地点）。ここは昨年、まだ8月だというのに葉の約9割が異常落葉したところでした。原因は、2023年と2025年の酷暑、そして少雨が強いストレスを招いたからです。

今年はそれが開花にどう影響しているかを調べました。大木のため、手が届きやすい下垂した100本の枝を選び、花の数を数えるという独自の手法で、花の数が1m当たりの開花密度で2034輪となり、上流・下流と比べ、44%も減少しました。他には枯死した蕾や開花遅れなども見られました（図②）。また、開花調査の前に毎年桜を見ている人に聞き取り調査を実施したところ、「いつもと何か違う」「花の色がうすいようだ」との感想も聞かれています。



異常落葉は桜自身が生きるための瞬時の対応だったと思われますが、この調査で「異常落葉」「エネルギー不足（花が小さくなる、色があせる、開花が遅れる、咲かずに枯れる、花数が減る）」が判明し、現在、気候変動などの環境ストレスに対して早期対応できるように水分（図③）・温度などを測りながらモニタリング中です。

一目千本桜は毎年見ている人にとつては観賞性が低下していてもその変化に意外と気づかないものです。単に寿命と諦めないで見渡せば、悪化した病原菌感染のAやBの桜、私有地樹林の越境が一因のCの桜など（図①）も改善の余地を残しています。